

§ 協会の動き（平成 22 年 1 月分）

「自力で生き残りを模索する時代」

会長 佐野 良雄

新しい年を迎え謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

一昨年秋から深刻化した世界同時不況の影響が、建設業界にも直撃して1年余経過しております。経済危機対策により多少の持ち直しが見られたものの、企業と家計、大企業と中小零細企業など、ねじれ現象も生じ、不況感が拭い去れないものでありました。

我々業界では、価格競争が相変わらず激しく、適正な利潤を上げることが程遠い状況となっております。加えて、大幅な公共工事の削減が、更に先行きの厳しさを予想させるものとなっております。全員が仕事量を確保していける時代は過去のものとなり、個々の企業がそれぞれの分野で、世の中の進展に確固たる技術力を持ち、進んでいくことが求められています。

高度成長に伴い、電気設備も多様化、高度化され、技術革新は顕著なものでした。これに携わる技術者にとって知識や技術の取得は多難となっております。しかし、自らその取得に努める事を怠り、専門業者にお任せ状態にしてきた一面がなかったでしょうか。

今日、まさに「自力で生き残りを模索する時代」が到来しております。アウトソーシングするということは、学習の機会を他人に譲るということではないでしょうか。企業の将来にとって大切な技術・技能は企業内で熟成してこそ将来の発展につながるものだと思います。

そして、私はこの時代に電気工事業を営むものとして必要なことは、顧客に対し高機能、高品質、高効率なトータルシステムを適正価格、適正工期で提供し、更には新しいニーズを掘り起こして、「顧客価値」の創造を行うことであると考えます。

（社）埼玉県電業協会では、各々の会員が業界のリーダーとして模範となるよう研鑽を積んで参りたいと思います。

本年もより一層のご支援ご協力をお願いし、皆様方のご多幸とご健勝を祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

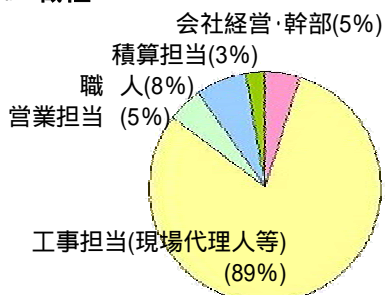
第 2 回技術講習会を開催

「内線規程と電気工事」をテーマに平成 21 年 12 月 3 日、建産連研修センター 第一会議室にて開催いたしました。

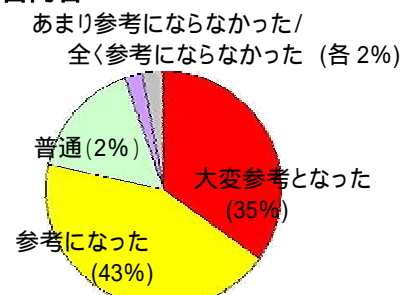
内容については、電気関係法令・規程/ 内線規程の概要/ 地中電線・架空電設/ 漏電遮断器と接地工事/ 低圧配線方法/ 電気設備と耐用年数 など 6 項目に分けて法令から安全面まで幅広く解説し、約 50 名の受講生からは好評を博しました。

[受講生のアンケート（抜粋）]

a 職種



b 講習内容



c ご意見

テーマをしばっていただき、わかりやすい解説でした。

復習させて頂き、忘れていた部分をあらためて確認できました。

規程や省令等の数字の根拠を御説明頂き、大変参考になり面白かったです。

同電位接地のメリット、デメリットについても、機会がありましたら御願致します。

テキストが良かった。(わかりやすい)

施工に際しての、関係法規の違いの説明が面白かった。

ex. ELBの感度の規定は、電技ではなく労規という事、埋設深さはJISという事。

配線用遮断器、許容電流については、よくわかりました。

自己消火性のお話や、今まで自分なりに思っていた事も、説明を聞き、参考になりました。テーマを狭くした講習もいいのかなあと思ったりも致しました。

仕事上、電気的设计をすることが多く、大変参考になったが、内容がかなり基礎に近いものもあったので、元々知っている事柄も多かった。

今の時代に沿った、太陽光、オール電化等の電気工事業者としての取り組み方なども取り上げて良かったかと思われました。

実際の施工に関する話をもっと交えた講義を聞きたかったです。

知って当然の内容なので、もう少しレベルの高い内容を勉強したい。



[挨拶する内山技術研究委員長]



[受講風景]



[受講風景]